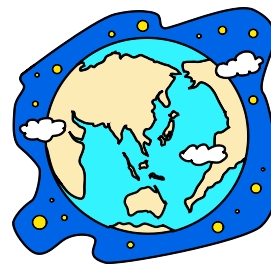


そ ら 宇 宙



グローバル社会で生きていく子どもたち

済美教育センター 所長 古林 香苗

済美教育センターでは杉並区次世代育成基金を活用した事業として「中学生海外留学事業」を実施しています。この事業では、生徒自らが設定した課題の解決に向けた学習を行うとともに、海外における生活や現地の人々との国際交流などの直接体験を通して、豊かな人間性や国際感覚、英語によるコミュニケーション力など、グローバル社会の中でたくましく生きるために必要な資質・能力の形成を目指しています。

令和5年度も8月にこの事業を実施する予定で準備をすすめているところですが、多くの区内在住生徒が応募をしてくれました。応募の際には、志望動機やどのような課題を設定して現地で学びたいかといったことを書いた作文を出してもらいます。その作文を読ませてもらいましたが、「中学生はすごい。色々なことを考えているな。」と感心しました。例えば、「これからの時代を生きていくために自分に足りない力はコミュニケーション力だ。だから、外国で勇気を出してコミュニケーションをとる経験を通して、その力を伸ばしたい。」「日本ではゴミの問題が深刻だ。だから、他国のゴミ問題に対する取組を学び、自分の取組に生かしたり、周囲に広げていったりしたい。」「外国の人々は日本のことや日本の文化をどのように思っているのか知り、意見を交流し自分の考えを広げたい。」等、切り口は色々でしたが、自分の思いをしっかりと書いていました。ここに紹介した作文はほんの一例ですが、ほかにも自分の思いを伝えようと一生懸命書いた作文がたくさんありました。このような作文に触れ、杉並区の中学生から、更に自分を伸ばしたい、視野を広げたい、思いを周囲に伝えたいという思いをもって、よりよく生きていこうという姿勢が感じられ、頼もしく思いました。



これからのグローバル社会では、外国人を含む多様な人々との日常的な交流が益々拡大する世の中になっていくことでしょう。そのような中では、確かな自己理解のもと自己肯定感をもち、異文化や異なる文化をもつ人々を理解することはもちろん、それらを尊重しながら協働することのできる力が重要となります。そのためには、海外留学体験のような特別な機会だけでなく、日常生活の中において「自分の考えや意見を発信する」「他者の主張を受け止める」「対話を通して、人との関係をつくり出す」「具体的な行動にうつす」といったことに積極的に取り組むことが大切です。これらのことは、まさに学校教育の中で日々あらゆる場面で行われていることであり、子どもたちはうまくいったりいかなかったりする経験を通して、力を伸ばしています。またその際、子どもたちの成長を見守る様々な大人たちが適切にかかわることにより、その力は一層確かなものになっていきます。

各学校では、子どもたちに身に付けさせたい力を明確にし、意図的かつ計画的に教育活動を進めています。済美教育センターは、そのような学校の取組を支援し、子どもたちのよりよい成長に携わっていきたいと考えています。

令和5年度 国際理解教育事業と主な内容

1 訪問指導

日本語の指導を必要としている帰国児童・生徒、外国人児童・生徒を対象に行う指導です。

- ・訪問指導要請書
- ・取り出しでの個別指導
- ・週2～3回訪問、1回2単位時間
- ・合計80単位時間



2 補充指導

- ① 訪問指導を受けていない場合
- ② 訪問指導を80単位時間終了後さらに日本語指導が必要な場合

- ・補充指導要請書
- ・水曜日の授業終了後2単位時間・合計40単位時間

ただし、学校と対象児童・生徒の希望がある場合は、曜日及び時間についてご相談ください。

3 国際交流の集い

帰国児童・生徒、外国人児童・生徒のスピーチによる発表会です。指導の様子のスライドショー、日本語指導教材・教具の紹介などもあります。

区立小・中学校に在学する帰国児童・生徒及び外国人児童・生徒とその保護者等を中心に、原則どなたでも参加していただける催しです。

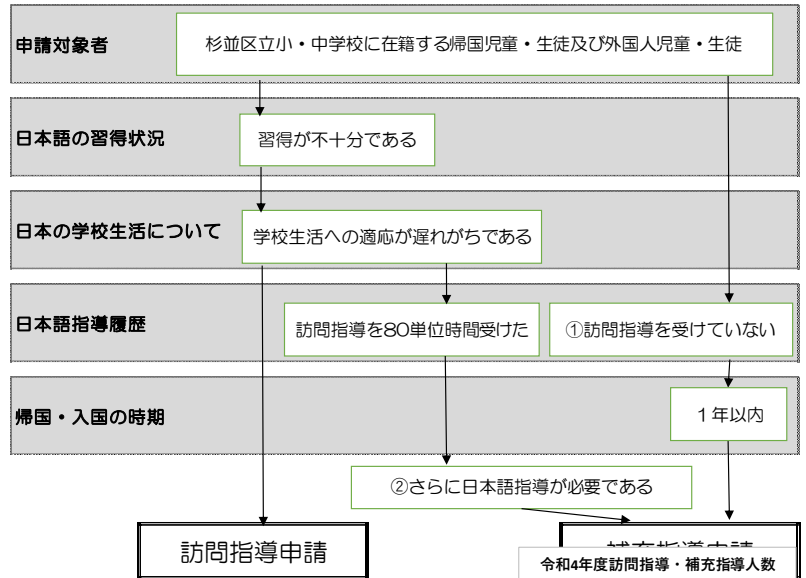


今年度の予定 令和5年12月9日(土) 14時 杉並区役所6階第4会議室

4 広報誌

国際理解教育広報誌「宇宙(そら)」を年に2回発行し、区立学校及び子供園、教職員、関係機関の皆様にご配布しています。

訪問・補充指導の申請について



令和4年度訪問指導・補充指導人数

出身国 滞在国等	合計	出身国 滞在国等	合計
ネパール	36	ネパール	19
中国	11	中国	3
アメリカ	6	アメリカ	1
イギリス	2	インドネシア	1
インドネシア	3	イラン	1
フィリピン	3	フィリピン	2
ブラジル	2	台湾	1
モンゴル	2	モンゴル	1
イタリア	1	日本	1
イラン	1	合計	30
インド	1		
ウクライナ	1		
エルサルバドル	1		
オーストラリア	1		
カナダ	1		
韓国	1		
タイ	1		
バングラデッシュ	1		
ミャンマー	1		
日本	2		
合計	78		

※補充指導には訪問指導を終えた児童・生徒も含まれます。



令和5年4月3日現在

【日本語指導でもタブレットを活用していきます】

コロナ禍を機に、児童・生徒たちは一人一台タブレットを使い、学校だけでなく家庭でも学習をすることができるようになりました。

日本語指導もここ数年、ホームページに無料でアップされる資料が増えてきました。東京都から各校にDVDが配布されている「東京の学校生活」も、東京都のサイトからYouTubeで見られるようになってきました。

そこで、それらの情報を集め、日本語指導を必要としている児童・生徒が利用しやすくしようと、杉並区の公立小中学校で使用している“ロイロノート”の資料箱に保存しました。

各学校でひと手間かけて、自校の資料箱にコピーすれば、児童・生徒が学校で使えるようになるだけでなく、家庭でも学習を進めることができるようになります。また、指導する講師も、児童・生徒にあった適切な教材を、その場で選ぶことができるようになります。これからも、児童・生徒が使っているタブレットを、有効に活用していくように工夫を進めていきます。

※右上のQRコードにアクセスすると、ロイロノートに入っている資料紹介のプリントが参照できます。

